

授業科目名	保育内容指導法 (環境)	教員名	満行 知花	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科目番号	FOI205	配当年次	2年前期		こども音楽療育士	選択
単位数	2単位			小幼コース	選択必修	
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)					
施行規則に 定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)					
一般目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。					
到達目標	<p>(1) 領域「環境」のねらい及び内容について</p> <p>① 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>② 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③ 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④ 領域「環境」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 領域「環境」の指導方法と保育の構想について</p> <p>① 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>② 領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③ 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④ 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤ 領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていくための指導法および基本的な知識を身につける。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深めるとともに、他領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係を知る。子どもをとりまく環境として、物的環境、自然環境、植物、動物、標識・文字、数量・図形との出会いについての基本的な知識や技能を習得し、それらを活用した保育の方法について実践的に学ぶ。子どもの発達を踏まえて、保育における環境 (人的環境、物的環境、社会環境など) を構成する技術を取得する。</p> <p>また、実際の保育実践の検討を行うことで、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を修得する。具体的な保育方法の考案を行い、それらを子どもの発達や領域「環境」の特性から、批判的に検討し、保育を改善する視点を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、保育活動・遊びの体験・考案、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					

授 業 計 画	<p>第1回：領域「環境」のねらいと内容及び評価 幼稚園教育要領・保育所保育指針を参照し、保育内容の領域「環境」のねらいと内容、内容の取り扱いについて学ぶ。教育課程や指導計画を改善するために必要な評価の考え方を学ぶ。(目標(1)②③④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第2回：子どもが自然環境と関わる意義 自然環境の中での遊びと安全対策 [講義] 子どもが自然環境と関わる意義について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに考察する。自然環境の中で遊ぶ際の安全対策を学ぶ。「森のようちえん」の実践映像を参照し、自然の中に潜むリスク・ハザードの実態と、保育者の対応方法についてグループで議論する。子どもの自然遊びを指導する際に必要となる、安全上の知識を獲得する。危険な生物として、スズメバチ類、毒ヘビ類(マムシ・ヤマカガシ)、マダニ等を取り上げ、これらの基本的な生態と対処方法について理解する。(目標(1)②④、目標(2)①⑤)</p> <p>第3回：季節との出会い 四季の変化と伝統行事・文化 [講義] 季節による自然の変化について考え、日本の風土の特徴を知る。四季の変化と密接に関わる伝統行事、遊びや童謡などの文化についてグループで議論する。園の中で季節を感じる生活をするために、どのような環境構成づくりが必要なのか考える。(目標(1)②④、目標(2)①⑤)</p> <p>第4回：植物との出会い 栽培を通しての子どもの育ちと草花あそび [講義・実践] 保育現場で野菜や草花を栽培する上で必要となる基礎的な知識を習得する。作物の栽培を通した幼児の生物概念の発達について学ぶ。遊びの素材としての植物の特徴を、共通性と多様性の観点から学ぶ。野草を用いたあそびを体験し、効果的な指導方法について考察する。(目標(1)②③④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第5回：数量・図形との出会い 野菜を用いたスタンプづくり [講義・実践] 幼児の数量・図形に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。図形に対する興味関心を育てる保育実践として、野菜を用いてスタンプづくりを行い、効果的な指導方法について考察する(目標(1)②③④、目標(2)①③⑤)</p> <p>第6回：動物との出会い 動物園実習準備 [講義] 子どもの発達の上で本物の動物を観察する、触れ合うことの大切さを学ぶ。園外保育の1つとして動物園を取り上げ、その特徴と歴史的背景、役割について学ぶ。動物園の動物を観察する上でポイントとなる、生物学的知識(生息環境に合わせた適応、性淘汰など)を学ぶ。動物園での園外保育について、グループごとに指導案を作成する。(目標(1)②④、目標(2)①②③⑤)</p> <p>第7・8回：動物との出会い 動物園実習 [実践] 宮崎市フェニックス自然動物園において、動物観察を行う。動物観察をもとに、子どもに紹介したい内容をグループで検討しまとめる(絵本、ペープサート、紙芝居など、形式は問わないものとする)。(目標(1)②④、目標(2)①②③⑤)</p> <p>第9回：動物との出会い 動物園実習発表会 動物園実習の成果をグループごとに発表する。(目標(1)②④、目標(2)①②③⑤)</p> <p>第10回：子どもと自然とのかかわりを深める指導法、いきもの散歩マップづくり [講義] エピソードを分析し、子どもが自然との関わりを深める上で、保育者が果たす役割を考察する。また、自然との関わりを支援する上で身につけておきたい視点を学ぶ。いきもの種類や生態を調べる方法を紹介し、情報機器を活用する際の留意点を学ぶ。(目標(1)②③④、目標(2))</p>
---------	--

	<p>①②③④⑤)</p> <p>第11回：子どもと自然とのかかわりを深める指導法、いきもの散歩マップづくり [実践] グループごとに自由にテーマを設定し、学内のいきもの散歩マップを作成する。いきもの散歩マップは、子どもを引率し散歩することを念頭に置いて作成し、子どもの発達や安全について意識するものとする。(目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤)</p> <p>第12・13回：いきもの散歩マップづくり(第11回のおつぎ) [実践] グループごとに学内を探検し、昆虫や小動物を採集したり、植物を探したりしながら、いきもの散歩マップを作成する。紙媒体・ICTの図鑑を用いていきものの種類を同定したり、生態を調べたりすることで、図鑑の使い方や図鑑を用いた効果的な指導方法についても理解を深める。(目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤)</p> <p>第14回：いきもの散歩マップ発表会 第11回、第12回の調査結果をプレゼンテーションとして発表する。発表においては、タブレットやパソコンを活用し、情報機器の利用の方法についても理解する。(目標(1)②③④、目標(2)①②③④⑤)</p> <p>第15回：授業のまとめ</p> <p>期末試験：試験期間中に実施 期末試験は教科書・プリント持ち込み「不可」とする。 基本的な知識問題と論述問題を中心とする。</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>毎回のレポートの内容30%、プレゼンテーションへの取り組み20%、期末試験の成績50%で評価する。なお、提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートに質問コーナーを設ける。レポートの答案例や質問に対する回答は授業で取り上げる。
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回授業後に次回の授業につながる課題を課す。課題について十分に調べ、また考察すること。プレゼンテーションに向けて、グループごとに授業外の時間で活動するなど、自発的に準備すること。</p> <p>事後学習：講義内容、体験活動を子どもの育ちと関連付けるレポート課題を毎回課す。授業内容を振り返り、十分な考察を行うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。授業ごとに資料、ワークシートを配布する。</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡「演習 保育内容「環境」—基本的事項の理解と指導法—」建帛社 ・秋田ら「新時代の保育双書 保育内容 環境 [第3版]」サンメッセ株式会社 ・吉田・横井「新・保育実践を支える 環境」福村出版株式会社 ・秋田・三宅「シリーズ 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・環境」サンメッセ株式会社 ・各種の昆虫・植物図鑑や絵本など(図書館、担当教員の研究室にて閲覧可能) ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 ・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館
<p>担当者からの メッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の領域「環境」の観点から環境を構成し、子どもの発達を適切に支援するためには、動植物や自然現象、社会、数や文字などに対する基本的な知識と、身近な環境を感じ取る豊かな感性、そして子どもに対する理解が必要です。この講義では、学生のみなさんが実際に遊びを体験する機会を用意します。積極的に参加し、楽しみながら知識を取得すると共に、自分の感性を育てていくように心がけてください。 ・本授業は、講義室で講義やグループワークを行う講義回と、野外で直接体験を行う実践回があります。実践回は天候に左右されるため、授業の順番が前後することがあります。次の回の授業内

	<p>容は、天気予報を踏まえて、前日にメールでお知らせいたします。</p> <ul style="list-style-type: none">・フィールドワークの際には、汚れても構わない服装・靴を身に付けてください。安全対策に関する知識を身につけ、十分注意して行ってください。・動物園実習は土曜日に実施します（具体的な実施日は授業で連絡します）。
オフィスアワー	随時訪問を受け付けます。できるだけ事前にアポイントメントをとってください。